

# 参加者アンケート結果

参加者 130名

アンケート回収 103名 (回収率79.2%)

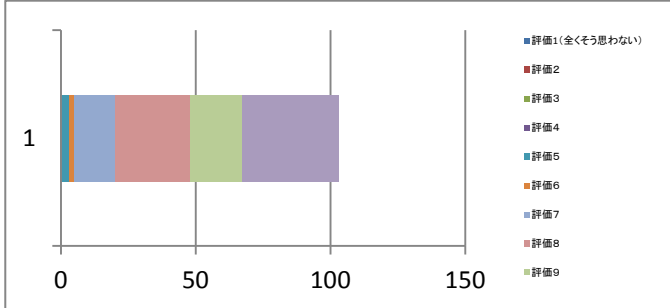
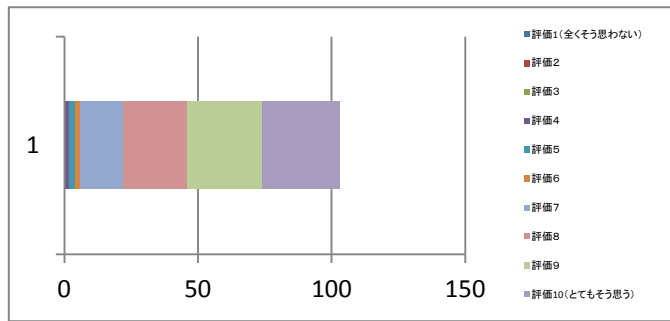
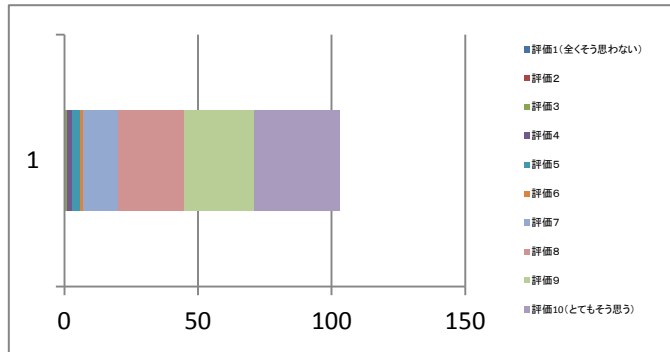
## 《参加者内訳》

- ・ 学外 121名
- ・ 学内 9名

## 《アンケート回答者内訳》

- ・ 医療職 53名
- ・ 福祉職 18名
- ・ 市民 16名
- ・ 学生 6名
- ・ 教員 2名
- ・ 保健職 1名
- ・ その他 7名

質問	評価	人数
1 本日の講演は満足しましたか	評価1(全くそう思わない)	0
	評価2	0
	評価3	1
	評価4	2
	評価5	3
	評価6	1
	評価7	13
	評価8	25
	評価9	26
	評価10(とてもそう思う)	32
2 本日の講演は参考になりましたか	評価1(全くそう思わない)	0
	評価2	0
	評価3	0
	評価4	2
	評価5	2
	評価6	2
	評価7	16
	評価8	24
	評価9	28
	評価10(とてもそう思う)	29
3 本日の講演は今後のあなたの活動に役立ちますか	評価1(全くそう思わない)	0
	評価2	0
	評価3	0
	評価4	0
	評価5	3
	評価6	2
	評価7	15
	評価8	28
	評価9	19
	評価10(とてもそう思う)	36



4. ご意見、ご感想、その他お気づきの点がありましたらご自由にお書きください。

【ご感想】

- 「生きるとは苦難の連続、乗り越える、そこに生き甲斐がある」心に染みました。
- もっと勉強し、自分の経験も活かしながら、自分の死生観をもたなければいけないと思いました。
- 石飛先生のお話は著書と同じ内容だったので思いの強さを感じました。
- 初めての参加でした。言葉の持つ意味や今回の学びを深め今後にかかしていきたいです。準備から開催までご苦労様でした。受付の方の雰囲気がとても良かったです！
- 施設に勤務しています。拘縮とかの問題で服の着替えが大変だったりすることがあります。考えさせられました。
- 特養看護職をしています。現場で働いておられるお二人の話を聞くことができたいに得たものがあります。
- 石飛先生の語りへのしぐさ、口調に人と向き合う、尊重する姿に信頼できる、また気持ちを預けられる気がした。知識、経験だけでなく、後悔に悩んだりしながらのケアスタッフに感動しました。
- 先生方の本音の気持ち、現場状況などを聴くことができほっとしました。
- 高齢者の施設で管理職をやっています。看取りについてとても参考になりました。
- とても考えさせられた講演でした。私は医療職であり、学生でもありますが、市民の方がどう思っているか興味があった。
- ターミナル看護にいかせれば・と参加しました。桑田講師の病院でのあり方はとても参考になりました。今後の看護に活かしたいと思います。
- 経管栄養をやめて、きちんと口から食べることを支援する考え方がすごく良いと思いました。
- 初めて出席させていただき、自分の最期を考える機会になりました。これからもいろいろな方のお話を伺っていききたいと思います。
- 医療法人と高齢者施設を運営しています。石飛先生の講演を拝聴するのは2回目ですが、毎回素晴らしいです。桑田先生はご自覚通り早口でしたが・でもよく伝わりました。早速実践します。
- 「生きるとは苦難の連続、乗り越える、そこに生き甲斐がある」心に染みました。
- 「平穏死のすすめ」を読んで、石飛先生のお話が聞きたくて参加させていただきました。大変勉強になりました。ありがとうございます。
- 集中治療室での終末期ケアについて看護研究しています。とても参考になりました。
- 意思決定に関する考え方「事前指示」をしてもうることが最近よく言われるようになりましたが、現在入所している超高齢者の方々の意思確認は難しく医師に委ねています。周囲のものが決めることでもいいのではと石飛先生のお話を聞いて勇気づけられました。
- 市民の方の医療者への問いかけは大変に良かった。
- 医療に対する考え方が少し変化しつつあるように感じた。
- とても大切な問題を考えるきっかけとなりました。
- 本人の意思がわからない時、家族の意思が優先されると思っていましたが、日々のケアの中で言葉ではない本人の意思が伝わるということ学びました。そうして意思を見落とさないようにケアをしていきたいと思います。
- とても興味深い内容でした。ありがとうございました。
- とても分かりやすく充実したシンポジウムでした。楽しかったです。ありがとうございました。
- 貴重なお話をありがとうございました。自分がどのように最期を迎えたいかどのように生きていきたいか、もう一度考えさせられました。
- 最期の場として、今回、特養、病院での看取りについて勉強させて頂きました。
- 今日の会は仕事をしていてとても参考になった。老健で働き看取りも行っているが、今の行動に迷いがあつたが少し自信を持てるようになった。
- 学生として、現在は健康な一般市民の方がどのようなことを感じているのかが、生の声を聞くことができ、とても参考になりました。
- 石飛先生、桑田先生ありがとうございました。こういう老人病院があるのと嬉しくなりました。医師の本音が伺えてこういう医師がおられることに感謝です。さらに将来、先生のような医師を育ててほしいと思いました。
- 写真、グラフなどを交えたお話、とても分かりやすかったです。

【ご意見】

- 家族や友人と改めて話しあってみたい。
- 病棟の外来に勤務しています。患者様の意思だけでなくご家族が施設に入所できないからと経鼻栄養からPEGへの変更を希望し、来院するケースもあります。入所を受け入れる施設の方針など現場で頑張ろうとする気持ちと法律や行政の決まりによりできない事、受け入れなければならない現実もたくさんあると思います。
- 両親と最期について話をしようと思う。また医療関連企業に従事する一人として何かできないか考えていきたいと思っています。
- 週末期介護部門のあるべき方向の話としてよく理解できた。桑田講師も話していたひとり暮らしの老人のケアは別の部門の事であるが大きなテーマであるはず。医師、看護師の立場だけでなく他の多くの分野の人々との協力が必要。
- まだまだエンド・オブ・ライフケアに対する一般的情報がいきわたっていないと思います。高齢化社会を迎えた日本の大きなテーマだと思います。
- ケアマネージャーとして仕事をしています。最期の場面に関わる人が多いですがこれで良かったのか？と思うことが多いです。実際、その人らしく最期を迎えることは難しい状況だと感じてい
- 自分の仕事に影響することが多くあり「看取り」を考え直すことが必要と思います。
- 先生とは同じ立場で(医師ではないですが管理職です)毎日仕事をしています。普段から同じ思いに勇気づけられます。特養で間違っていないこと、また理想を追求していきます。
- 特養の看護師です。具合が悪くなったら病院というご家族がほとんどです。最後は特養でと思っていたらいいケアを自信を持って伝えられるようにしていかなければならないと思いま
- 胃ろうを造設し、経口できなかつた人が約2年ほどかかって会話ができるようになり経口摂取ができるようになった症例があります。今までは胃ろうは発熱時の白湯注射に使用している程度です。ひとつひとつの検証ができていないのですが、あきらめないことが大事だと考えます。私たちが限界を作ってははいけないと思ってほしいですね。
- 昨年主人を送ってから、娘と度々自分の最期を語りあうことがあり、このような会に出席しています。とても良いことです。自分の希望を言っています。(77歳)
- 本人は何を望んでいるのか、また本人の家族の思いのギャップなどで正解はないのかもしれないが、できるだけ正解に近い生き方ができるような手助けができればいいと思った。
- 自然にゆだねる死に方をしたい(親は集中治療室で亡くなったため、かないませんでした)。
- 答えはないかと思う課題であり、普段悩んでいることです。共感できることがたくさんあり、これでもいいんだという面とこれからも悩み続けていこうと思います。
- 在宅では家族が納得しないとなかなか次に進めないことがあり世間ではまだまだ何もしない＝見殺しにするという思いが大きいです。
- 桑田さんの話は早口で声も高く聞いていて疲れた。
- 講師の方が超早口でした。良いことをお話されているのに聞きづらいと思いました。(患者や高齢者のトーンに合わない)

【ご要望】

- 素晴らしいシンポジウムでしたが、もっとたくさんの参加者に聞いてほしいと願います。
- エンド・オブ・ライフケアは一般市民へは日本語で表現する方が良いと思います。
- 講演の時間は60分で良いと思う。(もう少し聞きたかった)
- シンポジウムの時間を長くして、それぞれの先生の話をもっと詳しく聞きたかった。
- シンポジウム告知の段階で終了時間を明記してほしかったです。
- 現実と理想にはギャップがあって、それをどうやって実現できるか、例えば今、私の勤めている園で他職員にわかってもらえるか、共有できるかのアドバイスしてほしい。
- ケア提供者の側とケアを受けた方々の双方のお話を聞けたらもっと良かったと思いました。
- 残された家族へのグリーフケアについてもう少しお話を伺いたかった。自分なりにもどいったグリーフケアができるかを考えたい。
- 家での静かな看取り、在宅の取り組みも勉強できたら良かったと思います。(市民版として)
- の一人の元生いよびに本人や家族に寄り添つしにる病院、施設が工業にはない気がしまり。どうしたらそのような施設ができるのか、医療者の意識かそれともお金ののか聞きたかったです。
- 本当に苦しんでいる患者、家族にどのように伝えていっているのかを知りたい。
- 石飛先生の本音をもっとお聞きしたかった。(桑田先生は次回の準備の話につながるようになのか少し不満足である。)

5. 「エンド・オブ・ライフケア看護学」の企画内容や活動への期待、ご要望などお聞かせください。

- 情報や知識の提供を継続して発信してほしい。このような会を毎年開催してほしい。
- 今後もこのようなオープンなイベントが続けられるとありがたい。
- 高齢者の増加、現在両親を介護をしている中で、今後ますます必要な活動。もっと活動場所を広げてほしい。
- 自分も年を重ねてくると切実な問題。まだ世間では温度差があるかこれからもっと深めて欲しい。
- とても良い会だった、また参加したい。
- 今後も様々な立場の方からの講演やお話を聞きたい。
- 今回のようにいろいろな現場の声をきく機会を与えてほしい。
- 職種を問わず、いろいろな方が参加できる会を望む。
- 是非また市民が参加できるシンポジウムにしてほしい。
- 講演回数をもっと増やしてほしい。
- これからも土、日で参加しやすい講演会を開催してほしい。
- 関東以外でもシンポジウムを開いてほしい。
- もう少し身近な場所で開催されたらと思う。
- 大変良い企画で講師の選び方、テーマの設定、タイムリーで良かった。
- 第1回の本をありがとうございます。どの会も大変興味深く有意義な時間だった。第3回も参加したい。
- 今後も市民と医療職者が参加、勉強、ディスカッションできる場があると良い。
- 開催のPRをもっとするとよい。せつかくの機会なのでもったいない。
- ディスカッションの場ともう少し時間がほしい。医師やNsだけでなく、他の職種、例えば介護師などの話も聞きたい。
- 終末期介護の立場からの発言が必要。
- 今日には医療関係者や高齢者が多かったが、本来誰にでも必ずくる最期、これからは若い学生の方にもエンド・オブ・ライフについて教育として組み込まれていくことが必要だと感じた。
- 医療職者や市民にも拡大するようにしてほしい。文化として根付くことを考えて行きたい。
- 「老人本人のデシジョン(意思の確認)」をどのように具現化させるかといった実例をもっと知りたい。
- エンド・オブ・ライフケアについて「どのように家族を話し合い、決めていくことがよいか」をもっと知りたい。
- 最期のあり方は、いろいろあるということを医療機関等が家族に説明してほしい。医療機関にエンド・オブ・ライフケアの考えを浸透させてほしい。
- 日本文化、医療者ともに、エンド・オブ・ライフケアがさらに普及していけばいいと思う。
- 遺族の気持ちを出せる場所が必要だと思う。あれば利用したい。